

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2297 号

Increase in Fibrinogen Degradation Product Levels 5 Days after a Traumatic Insult

外傷経過において FDP は 5 日目に再上昇する

長澤 宏樹 (ながさわ ひろき)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、外傷受傷後に上昇した FDP 値が第 4 病日まで経時的に低下し、第 5 病日に再上昇することを始めて明らかにした臨床的に意義ある論文である。外傷において FDP 値が上昇し、その値が重症度や死亡率と相関することはこれまでの先行研究で知られている。しかし、その値がどのような推移を辿るかについて研究された文献はない。外傷後は感染や血栓形成などの合併症を引き起こすことも多く、様々な要因で変動する FDP 値は日常診療でも重要である。今回、その値が受傷第 5 病日で再上昇することが観察研究で示された。FDP 値に関与しうる手術や感染症の合併を限りなく排除した群においても同様の結果が得られたことで、およそ外傷後の一般的な経過として FDP が再上昇しうることを示すことができた。再上昇したメカニズムについて究明することは今後の課題ではあるが、それが明かされることで外傷後の凝固線溶系メカニズムの解明や深部静脈血栓症などの予防にも役立つ可能性がある。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。